

※ 著作権の関係等により、ホームページ上に
掲載することができない資料を一部割愛しております。

令和3年12月16日（木）
令和3年度 第1回
大阪府立狭山池博物館運営審議会

資料
1

令和3年度 第1回

大阪府立狭山池博物館運営審議会

令和3年12月16日

大阪府立狭山池博物館運営審議会 審議経過

諮問：大阪府立狭山池博物館の効果的、効率的な運営について

第1回（H29-1） H29.11.15

- 博物館の現状把握

第2回（H29-2） H30.3.8

- 検討（運営体制、情報発信、運営コストなど）課題の抽出



（委員意見）

- ・ **博物館が目指す目標設定**の明確化が必要
- ・ **運営改善の方向性**の検討が必要

第3回（H30-1） H30.6.27

- 効果的・効率的な運営に向けた方向性について
- ・ 博物館の意義と目指すべき方向性 ・ターゲットを定めた今後の方向性
- ・ 収支改善方策検討の方向性



（委員意見）

- ・ **目標設定**および**運営改善の方向性**について了解
- ・ **実現可能性**の検討が必要

第4回（H30-2） H30.9.26

- 効果的・効率的な運営方針（素案）について



（委員意見）

- ・ **委員意見を反映して素案を修正し、中間答申を取りまとめ、案を示すこと**

第5回（H30-3） H31.1.21

- 中間答申（案）について



中間答申



（委員意見）

- ・ **とりまとめられた中間答申に基づいた運営を実践し、方向性の検証が必要**

第6回（R1） R2.2.3

- 中間答申に基づく取組みの方向性の検証
- ・ 取組み目標と成果指標の設定
- ・ 今後の集中取組期間とその後の進め方



（委員意見）

- ・ **取組みの目標の明確化を行うこと**
- ・ **成果指標を最終答申までに検討すること**

第7回（R2） R2.10.15

- 取組目標の明確化と成果指標の検討
- 1. 中間答申の概要
- 2. 目指すべき姿と成果指標について
- 3. 開館20周年イベントの概要
- 4. 今後のスケジュール



（委員意見）

- ・ **コロナ禍での影響や開館20周年記念イベントでの検証結果を踏まえて、数値を含めて指標を提示すること**

第8回（R3） R3.12.16

- 成果指標の設定と今後の運営展開について



最終答申

1. 狭山池博物館の意義と目指すもの (ここにしか無い"土木"とまちのシンボル)

西暦	1997	~	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	202x
平成	9		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和1	2	3	~
	建設着手		開館							財プロ		史跡指定			区域指定		大規模修繕着手							
運営体制	府								三者協働 (府・市・地元)								三者協働 (+α)							

意義 狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容と意義を後世に伝える

土木の歴史的価値の継承

■ 狭山池の歴史を通じ過去の土木技術を伝える

・ 貴重な歴史遺産と土木技術、土地開発史として歴史と文化の継承の意義を高め、保存技術を駆使し後世に広く伝えるとともに、狭山池研究成果を発信する。

⇒ ・ 先人たちが地域の安寧と発展に注いだ熱い思いの伝承

＜土木技術者へのメッセージ＞
＜狭山池の歴史の伝承＞

・ 土木事業やかんがい事業の意義の訴求
＜土木への府民理解の推進＞

⇒ **歴史的ダム保全事業により
土木主体の博物館を建設**

【土木主体の博物館としては日本で唯一】



堤体断面展示

＜博物館建設成功の因＞

- ・ 狭山池が土木工事の歴史的遺産
- ・ 産・学・官の連携による建設
- ・ 地元からの期待と支援 (地域の財産)
- ・ 国の理解と支援 (土木事業への期待)
- ・ トップの歴史・文化的センス (土木博物館)
- ・ 時代背景 (好景気・公共事業費の上昇)

重源狭山池改修碑 (国重要文化財)



土木の役割・意義の発信と将来に向けた展開・発展

土木事業・土木技術の歴史
「知」の交流・発信拠点

防災教育
拠点

現在の文化、人の交流の場として活用
まちのシンボリック資産となり、
まちの価値を高める

■ 狭山池築造で駆使された土木の歴史を踏まえ、 土木の価値・機能を発信する

- ・ 土木事業・技術の広報
- ・ 新たな土木技術の発信

⇒ **＜将来を担う技術者の育成＞**

- ・ 収集保存機能の強化、調査研究の推進
＜アーカイブス整備＞

- ・ 防災インフラの価値発信
- ・ 生涯学習・学校教育支援
＜防災教育拠点化＞

「コミュニケーション」
「プレゼンテーション」

相互
連携

「アーカイブス」

展示・情報発信

収集保存

新技術等のPR

調査研究

教育学習・一般参加

(小学生 校外学習風景)



地域魅力創造

■ 国史跡狭山池の持つ多面的価値を活用する

- ・ 「まちのシンボリック資産」価値の創造 (ブランディング)
(安藤建築、日本最古のダム式ため池)
＜地域価値の創造＞

- ・ 地域協働、郷土学習、狭山池散策、観察など多様な目的を持つ主体が集う場の形成

＜文化、人の交流拠点創造＞

史跡狭山池が地域の財産である
という共通理解の意識醸成



2. 狭山池博物館の取組みの方向性

【コンセプト】 いつも、来館者に新しい発見を！ ～狭山池の昔・今・将来～
 < 多様な主体による新たな価値・人の創造発信拠点 >

ポテンシャル

土木の歴史的価値の継承

土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点

地域魅力創造

戦略

価値の理解度を高め、深める

土木の交流の場を作る

まちのシンボリック資産として活用する。

ターゲット

土木・歴史に興味のある人

郷土史に興味のある人

大阪狭山市民

流域住民

土木・歴史の価値を学び発信する機関（産官学）

地域資産として狭山池と一体として活用する人・団体

取組みの方向性

短期

2021

他機関連携、博物館全体活用により実現

・展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化

・土木の役割・魅力PR
 ・防災教育の拡充

・地域魅力発信
 ・多様な利活用推進

中期

新たな収入確保により実現

魅力的な展示充実
 (デジタル技術導入等)

交流拠点機能強化
 (土木技術等アーカイブ整備
 ・教育研修メニュー等充実)

国史跡狭山池との一体的魅力創造
 (狭山池の価値を高める環境整備)

長期

常設展示の全面的リニューアル

日本唯一の土木博物館としてのプレゼンス確立

狭山池を核としたまちづくり

狭山池博物館の目指すべき姿の実現

3. 具体的な取組内容と成果・効果

※太字は集中取組み期間（R1.4～R4.3）で実施を予定している取組み

※●印：実施済み、実施中の取組み

今後の博物館の運営展開について、集中取組み期間（R1.4～R4.3）で実施を予定している取組みのうち、現時点で、実施済み、実施中の取組みは以下のとおりである。

土木の歴史的価値の継承

狭山池における研究・調査により得られた知識・情報を取り入れた展示・解説の提供

・遺構、史跡の調査研究成果の充実…①

- 常設展示
- 学術調査の実施（特別展）
- ボランティア企画展
- 古文書講座
- 展示解説の更新

・展示解説の改良完了

- わかりやすいリーフレットの作成
- QRコードの活用
(施設の解説、多言語対応、
各種アプリ、アンケート実施 など)
- 音声ガイドの更新
- 展示模型の制作
- VR,ARを活用した展示

狭山池への興味の有無に関係なく、誰もがわかる展示・解説の提供

・遺構、史跡の調査研究成果の充実

➢①と同じ

・展示と現地(池)を一体化するサインボードの設置

- 史跡ネットワーク
- ダムネットワーク
- 郷土資料館

・展示解説を含む博物館内の多言語化

- 英語版リーフレットの作成
- 展示解説の多言語化(英・中・韓)

狭山池の必要性、重要性をより広く伝えるための情報発信

・改良後のホームページによる情報発信

- 館内ストリートビュー掲載
- 「OsakaFree Wifi」の整備
- ホームページ改良

・SNSを活用した情報発信

- SNSによる情報発信
- 来館者によるSNS発信の誘導

土木事業・土木技術の歴史 ・「知」の交流・発信拠点(防災教育拠点)

土木・建築などの関係団体との連携体制を構築し、情報発信、イベントの実施

・土木関係団体との連携体制構築

・建築関係団体との連携体制構築

・防災関係団体との連携体制構築

➢NPOとの連携(小学生向けイベント)

●JICAとの連携

●民間団体との連携(イケフェス)(安藤建築)

●気象台との連携(防災講座)(防災展示)

●土木関係団体との連携

●建築関係団体との連携(建築見学会)

➢土木関係団体(ミニ建設技術展)

・教育委員会との連携体制構築

●大阪狭山市教委との連携(教職員)(小学生)

●小学校との連携(土木・防災)

・土木技術、防災情報の発信イベントの継続した開催

●土木遺産展

●狭山池・池底ツアー

●JICA研修受け入れ

●イケフェス実施

●防災講座(一般)(教職員)

●防災パネル展示(大阪府)

●土木講座(小中学生)

●建築見学会

●防災講座(小学生)

➢防災パネル展示(気象台)

➢ゲーム等を活用した防災教育

・防災学習教材の完成

➢防災教材完成

集積した情報の適切な公開・発信

・アーカイブの整備

➢所蔵資料アーカイブの整理

・Webを活用した情報発信

●過去の企画展示などの内容を

YouTubeやHP等を利用して公開・発信

「日本最古のダム式ため池」「安藤建築」

という特性を活かしたイベント実施

・博物館での多様なイベントの継続と拡充

●狭山池歴史ウォーク、古文書講

座などの歴史イベント

●イケフェスなどの建築系イベント

地域魅力創造

広報活動を通じた魅力の発信

・多面的な魅力を活用した様々な媒体での広報の実施

●行基イベントの活用

●くらしの道具展

➢クリーンキャンペーン実施(エフエム大阪)

⇒コロナ禍により中止

●各種取材対応

ボランティア主導による地域に根差したイベントの実施

・博物館での多様なイベントの継続と拡充

●フレッシュコンサート

●書初め展

●わくわくイベント

●写真展

●絵画展

➢狭山池まつり(期間中開催できず)

●博・楽・人

●インフラツーリズム

(行基関連)(ツーリスト)

●各種カード(マンホール・ダム名等)配布

●20周年記念イベント

●地域イベントでの博物館活用

市のまちづくり基本構想との一体的な博物館運営の実施

・まちづくり基本構想の検討

●「水とみどりのネットワーク構想」の検討

・基本構想に基づく狭山池の周辺整備

●狭山池南側アンダーパス整備

4. 狭山池博物館の短期的取組みの評価

中間答申以降、これまで集中取組期間（R1.4～R4.3）の中で行ってきた短期的取組みについて、評価を行い、中長期的な取組みの方針（方向性）を取りまとめた。

	取組の柱		
	土木の歴史的価値の継承	土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点	地域魅力創造
短期的取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土木の役割・魅力PR ○ 防災教育の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域魅力発信 ○ 多様な利活用推進
短期的取組みの状況	<p>○狭山池における研究・調査により得られた知識・情報を取り入れた展示・解説の提供 ⇒子ども向けのリーフレットの作成や解説版QRコードを設置し、スマートフォン画面で解説が分かるようにするとともに、多言語による音声ガイドの開設に取組んだ。</p> <p>○狭山池への興味の有無に関係なく、誰もがわかる展示・解説の提供 ⇒多言語版のリーフレットの作成や紙芝居、博物館で展示している実物堤体の採取地について現地案内表示版を設置するなど展示・解説の充実ができた。</p> <p>○狭山池の必要性、重要性をより広く伝えるための情報発信 ⇒多言語化に対応したHPの改良やWiFiの整備、館内ストリートビューの掲載のほか、SNSによる情報発信を行うなど、狭山池の必要性、重要性を広く伝える情報発信ができた。</p>	<p>○土木・建築などの関係団体との連携体制を構築し、情報発信、イベントの実施 ⇒大阪管区気象台と連携した防災講座やJICA研修、土木遺産展、防災パネル展等を開催するなど、関係団体と連携体制を構築し、情報発信や、イベントを実施できた。</p> <p>○集積した情報の適切な公開・発信 ⇒所蔵資料アーカイブの整備や過去の企画展示の動画配信は、今後実施予定。</p> <p>○「日本最古のダム式ため池」「安藤建築」という特性を活かしたイベント実施 ⇒狭山池歴史ウォークや狭山池古文書講座の開催、治水施設見学ツアーのほか、関係団体と連携して、安藤建築である狭山池博物館の見学会を開催するなど特性を活かしたイベントを開催することができた。</p>	<p>○広報活動を通じた魅力の発信 ⇒行基ゆかりの団体と連携し、連絡会への参加や博物館で講演会を開催するなど広報活動を通じた魅力の発信ができた。</p> <p>○ボランティア主導による地域に根差したイベントの実施 ⇒フレッシュコンサート、書き初め展、写真展、絵画展、博・楽・人、博物館開館20周年記念イベントを開催し、多くの市民が博物館を訪れ、地域に根ざしたイベントを開催することができた。</p> <p>○市のまちづくり基本構想との一体的な博物館運営の実施 ⇒大阪狭山市の計画である「水とみどりのネットワーク構想」について、府市連携して取組を進めるとともに博物館、狭山池、副池が一体となった賑わいづくりの検討を進めた。また、ネットワーク構想による西除川アンダーパスの整備が令和2年3月に完成した。</p>
評価	<p>中間答申に基づき、短期的取組みとして実施した内容は、コロナウィルス感染症による影響を受けたものの、5 取組の柱毎の方向性に沿った内容が実践され、取組みが達成出来ているものと評価する。</p>		

5. 目標とする成果指標について

コンセプト	視点	取組の柱	目指すべき姿	取組方針	指標項目
<p>いつも来館者に新しい発見を与える博物館</p> <p>多様な主体による新たな価値や人を創造・発信する拠点</p>	<p>既存の 魅力向上</p> <p>新たな 魅力の創造</p>	<p>土木の歴史的価値の継承</p>	<p>狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容などの歴史をいろいろな人に広く伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山池における研究・調査により得られた知識・情報を取り入れた展示・解説の提供 ・狭山池への興味の有無や年齢階層、国籍などに限らず、分かりやすい展示・解説の提供 ・狭山池の必要性・重要性をより広く伝えるための情報発信 	<p>来館者数 (量的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 博物館の来館者数 <p>満足度 (質的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 博物館全体の満足度 ■ 各取組の柱の満足度
		<p>土木事業・土木技術の歴史・「知」の交流・発信拠点 (防災教育拠点)</p>	<p>博物館での調査研究などで得られた土木技術に関する技術や防災情報などの情報を蓄積することにより、それぞれの役割・意義を広く伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土木・建築などの関係団体との連携体制を構築し、情報発信、イベントの実施 ・「日本最古のダム式ため池」「安藤建築」という魅力を活かしたイベントの実施 ・常設・特別展示、防災講座などの情報の蓄積と、適切な公開・発信 	
		<p>地域魅力創造</p>	<p>まちの価値を高める「シンボル」として、また、まちづくりの拠点として多様なイベントに活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を通じた魅力の発信 ・ボランティア主導による地域に根差したイベントの実施 ・博物館、狭山池、副池が一体となった賑わいづくりの推進 ・イベントを継続していくために必要な人材の育成 	

5. 目標とする成果指標について

狭山池博物館の来館者数（量的）の成果指標の設定

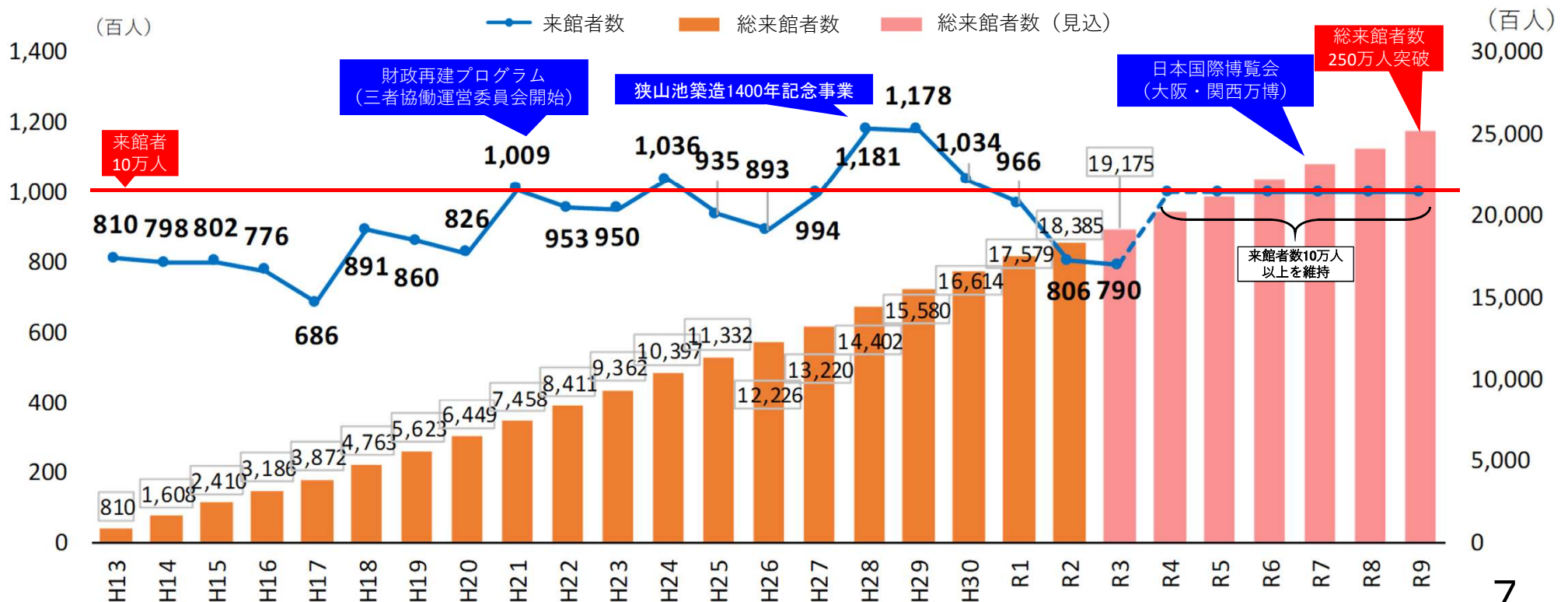
- ・狭山池博物館の開館から現在までの来館者数は以下のとおり。
- ・来館者数は、開館当初から10万人を目標に、H21年度、H24年度、H28年度（狭山池築造1400年記念事業）からH30年度まで目標を達成したが、R1年度、R2年度はコロナウイルス感染症による臨時休館もあり、来館者数は10万人を下回った。
- ・来館者数の成果指標は、開館時からの目標である**10万人以上を継続して達成できるよう「10万人以上」を設定する。**

【狭山池博物館の年度別来館者数】 10万人以上 : 来館者数10万人以上 【単位：人】

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
来館者数	80,994	79,842	80,159	77,633	68,552	89,111	86,033	82,598	100,906	95,313	95,013	103,595

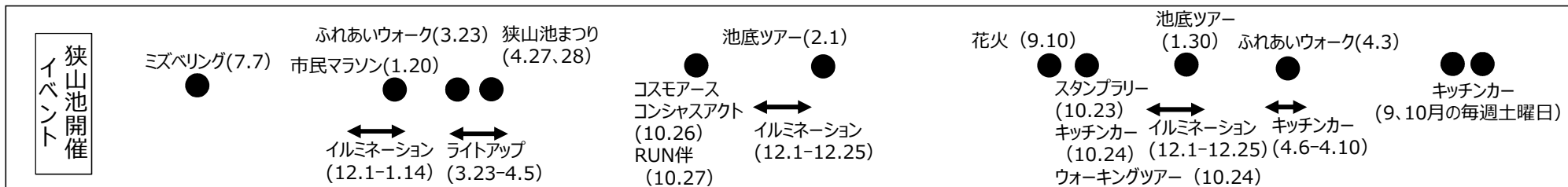
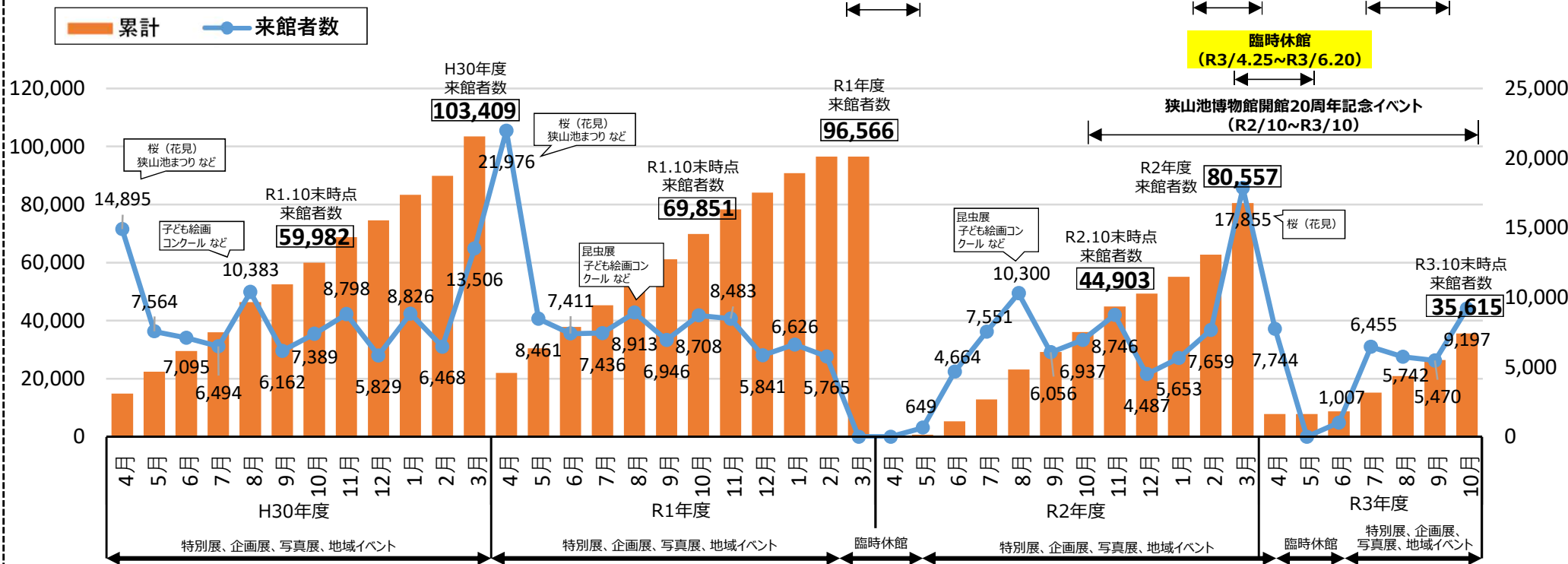
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3(見込)	R4(目標)	R5(目標)
来館者数	93,495	89,331	99,442	118,147	117,798	103,409	96,566	80,557	79,000	100,000以上	100,000以上

※R1,R2年度はコロナウイルスによる臨時休館のため来館者数が減少している。



5. 目標とする成果指標について

■ 狭山池博物館の来館者の推移 (H30.4~R3.10)



■ 狭山池博物館の来館者数における評価

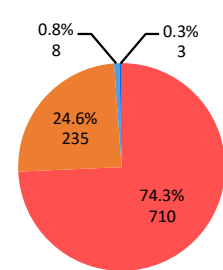
- ・例年3,4月等の来館者増の要因は、狭山池公園でのイベント期間にあたり、参加者による博物館への人の移動の影響が増加につながったと考えられる。(令和2年度除く)
- ・夏休み期間中の8月は比較的に来館者が多く、当該期間中に企画した子ども絵画コンクールなど親子での観覧、また体験型のイベントが来館者増につながったと考えられ、今後も引き続き、親子参加型のイベントを実施していく。
- ・令和2年から令和3年にかけてコロナに伴う緊急事態宣言等の期間は、平成30年、令和元年に比べて減少している。
- ・コロナ禍の影響によりR1、R2年度の来館者は10万人を下回ったが、H30年度のような通常期において**来館者が10万人以上を継続して達成できる運営を目指す。**
- ・また、博物館におけるイベントに加えて、**狭山池公園のイベントとの連携を図りながら来館者の増加につなげていく。**

5. 目標とする成果指標について

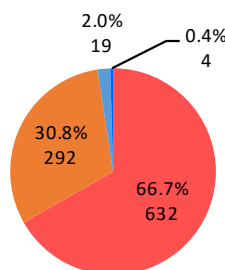
■ 狭山池博物館全体における満足度（質的）の評価 ※R3は、R3.10末時点までの集計結果を反映

- ・博物館全体の満足度（雰囲気、展示内容、スタッフ対応、施設・設備）の「満足」の割合は、7割程度で、「どちらかといえば満足」を含めるとほぼ9割以上の評価である。
- ・館の雰囲気については、来館者から静かでゆっくり見学が出来たとの意見があった。
- ・展示内容については、古代の土木事業のすばらしさに驚いた、ダムへの関心が高まった、面白かったとの意見がある一方で、説明文が読みにくいので大きくしてほしい、映像を最新にしてほしい、模型やパネルを増やしてほしいなどの意見があり、今後、魅力的な展示充実を行っていく必要がある。
- ・スタッフの対応については、博物館ボランティアの説明が丁寧で分かりやすいと好評であった。引き続き、ボランティアによる展示解説を継続していく必要がある。
- ・館の施設・設備については、建物や滝が綺麗との意見があるが、一方で、滝を綺麗にしてほしい、トイレの改良（温水便座の設置）などの意見があり、施設・設備について、今後、改善していく必要がある。
- ・交通の便については、「便利」の回答が半数を下回っており、約2割の来館者が「どちらかといえば不便」、「不便」と回答した。不便と回答した主な理由は、「駅からのアクセス」、「駐車場がない」であり、案内板の表示等改善が必要である。

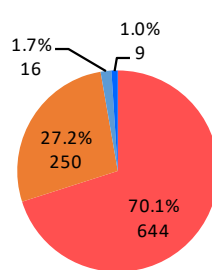
今後は、このような意見を踏まえて、改善等を行い、来館者アンケートによる「満足」の割合の向上を目指す。



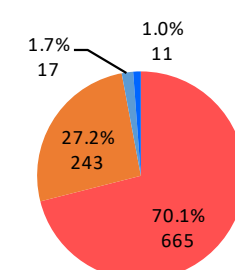
▲館の雰囲気



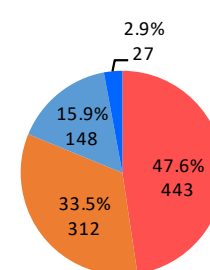
▲展示内容



▲スタッフの対応



▲館の施設・設備



▲交通の便

【グラフ中の数値】
上段：割合
下段：サンプル数

- 満足
- どちらかといえば満足
- どちらかといえば不満
- 不満

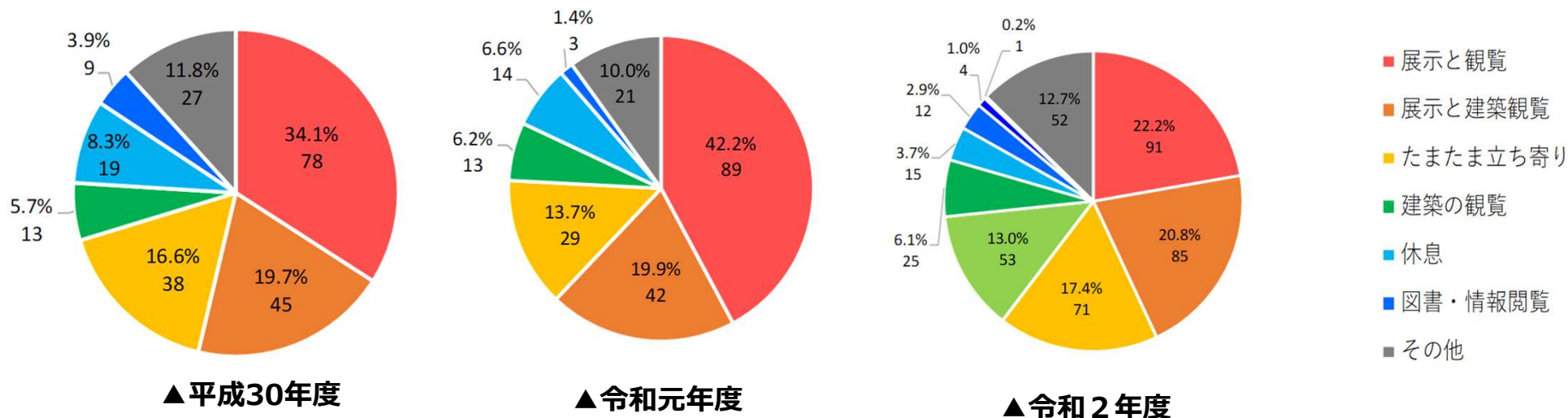
5. 目標とする成果指標について

■【参考】狭山池博物館全体におけるアンケート調査項目の年度別比較

【グラフ中の数値】
上段：割合
下段：サンプル数

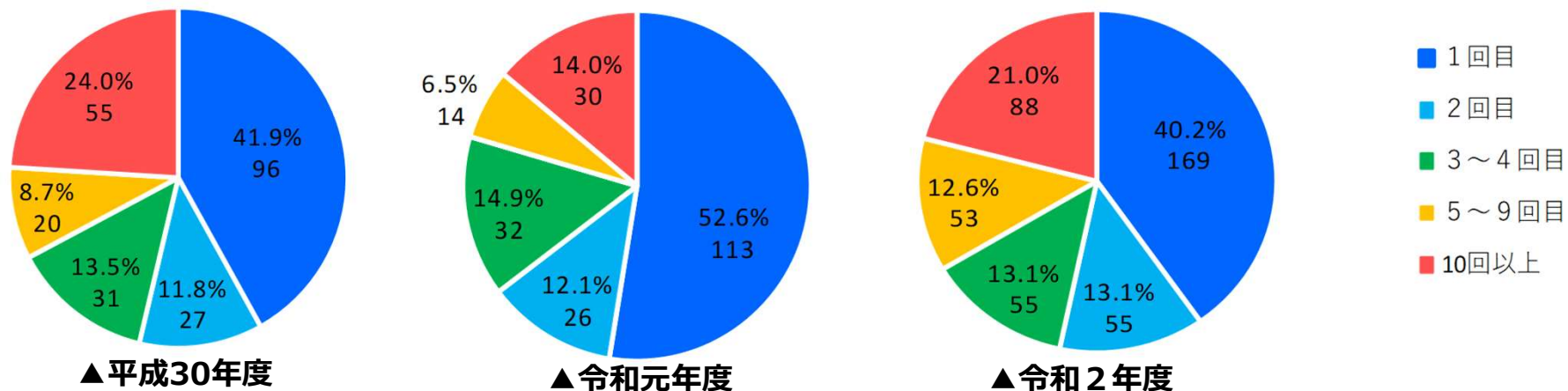
【来館目的】

・来館目的は、展示と観覧（建築含む）が約4割となっている。令和元年度は、土木遺産展（橋梁）と土木遺産展に関する講演会の開催により、他の年度に比べ、割合が高くなったものと考えられる。



【来館頻度】

・来館頻度は、初めて（1回目）が約4割となっている。令和元年度は、来館目的と同じく、土木遺産展（橋梁）の開催により、初めての来館者が他の年度に比べ、割合が高くなったものと考えられる。

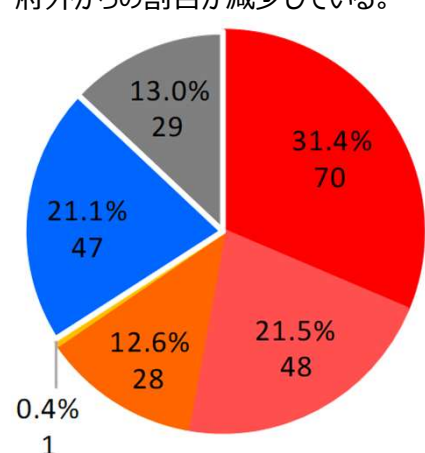


5. 目標とする成果指標について

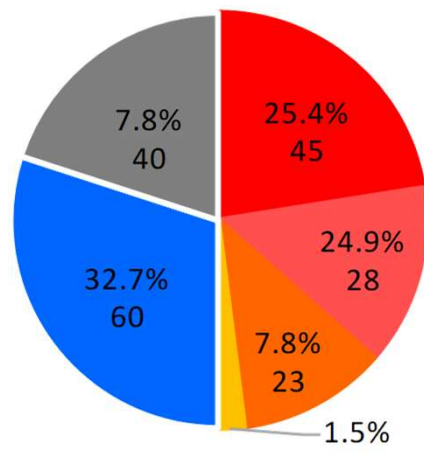
■【参考】狭山池博物館全体におけるアンケート調査項目の年度別比較

【どこから来たか（居住地）】

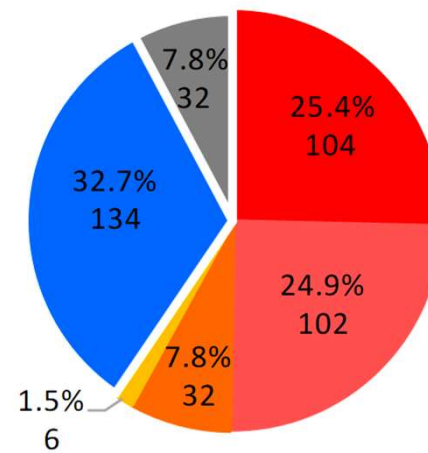
・居住地は流域市の割合が高い。府外からの来館者は2割程度であるが、令和2年度はコロナウイルス感染症の緊急事態宣言などがあり、府外からの割合が減少している。



▲平成30年度



▲令和元年度



▲令和2年度

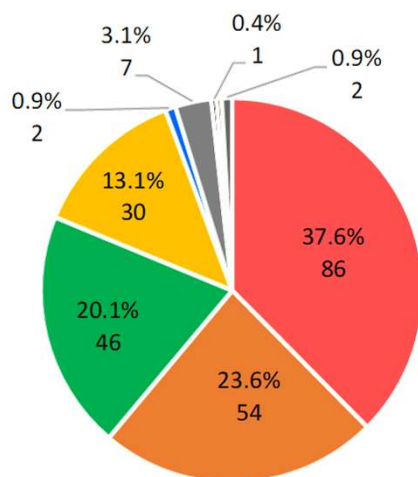
【グラフ中の数値】
上段：割合
下段：サンプル数

※流域市

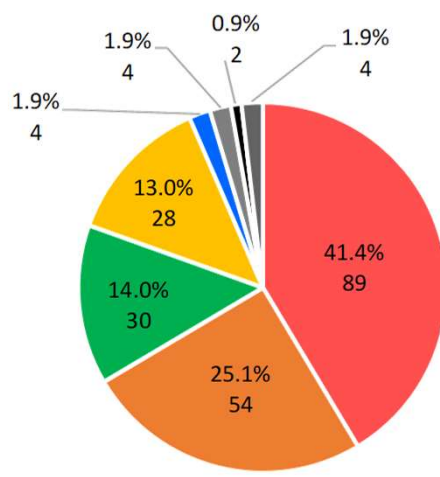


【利用交通機関】

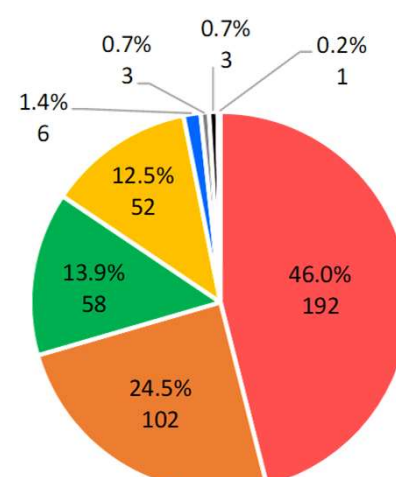
・利用交通機関は、乗用車、電車が約7割で、乗用車の利用が最も多く、約4割となっている。



▲平成30年度



▲令和元年度



▲令和2年度



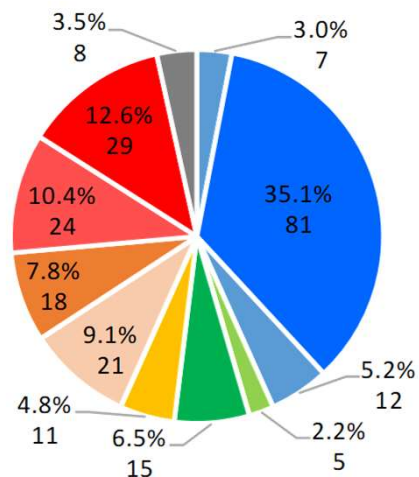
5. 目標とする成果指標について

■【参考】狭山池博物館全体におけるアンケート調査項目の年度別比較

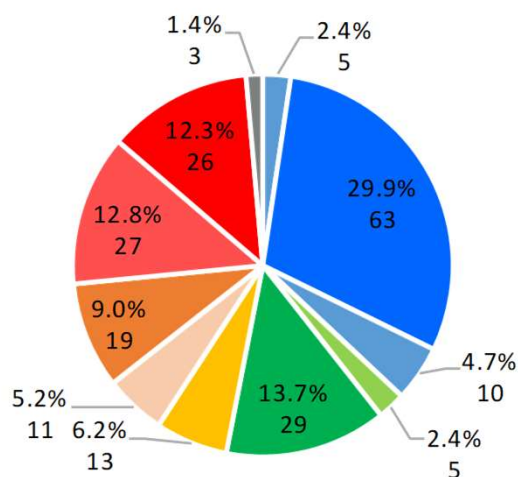
【グラフ中の数値】
 上段：割合
 下段：サンプル数

【年齢層】

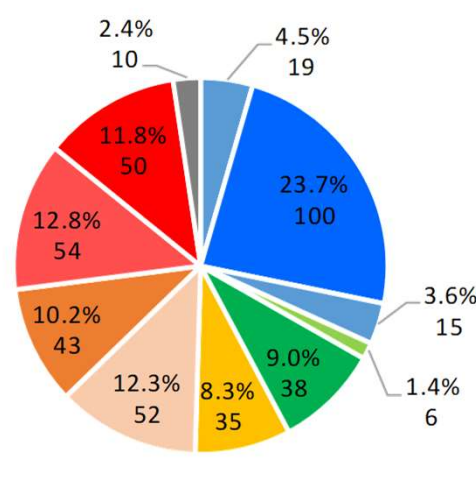
・年齢層は、幅広い世代から来館されているが、小学生の割合が高く、出前講座などの防災教育や社会見学、夏休みの研究などで利用されているものと考えられる。また、50歳以上の世代が約4割を占めており、博物館の展示を観覧する年齢層が両極端になっている。



▲平成30年度



▲令和元年度

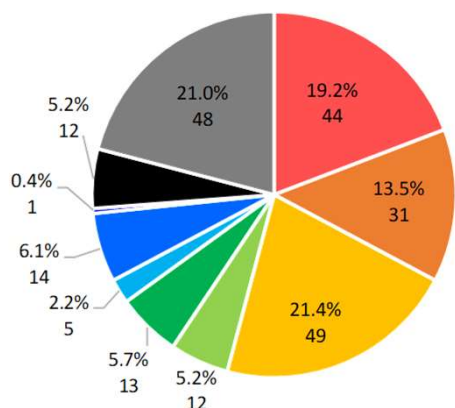


▲令和2年度

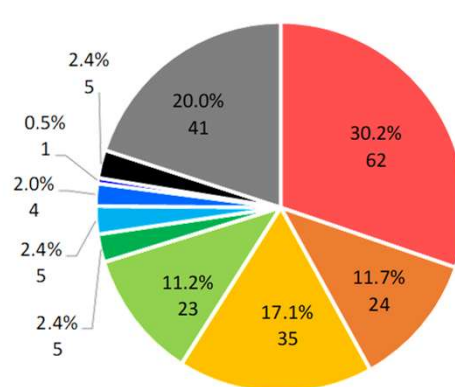
- 幼稚園
- 小学生
- 中学生
- 高校生
- 18～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～69歳
- 70～79歳
- 80歳以上

【情報入手方法】

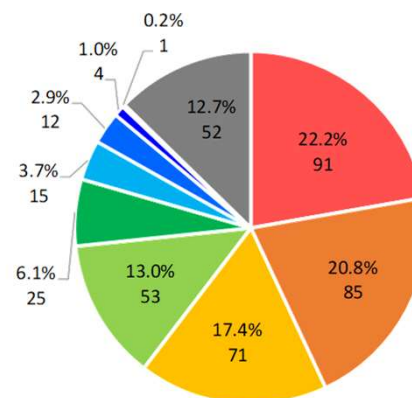
・情報入手手段は、家族・友人・学校紹介、ポスター・チラシが約4割となっている。博物館HPからの入手は約1割であることから、インターネットを利用した情報提供の充実をはかる必要がある。



▲平成30年度



▲令和元年度



▲令和2年度

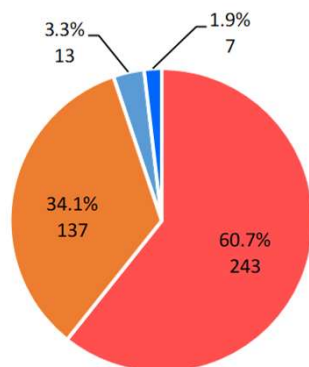
- 家族・友人・学校紹介
- ポスター・チラシ
- 近くを通った
- 当館のHP
- 府・市広報
- テレビ・ラジオ
- 新聞・雑誌
- 他館のHP
- インターネット・メルマガ
- その他

5. 目標とする成果指標について

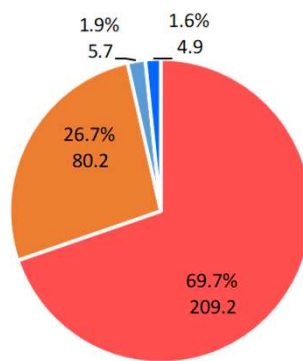
■ 取組の柱ごとの満足度（質的）の評価

- ・取組の柱の満足度は以下のとおりで「満足」の割合は6～7割程度で、「どちらかといえば満足」を含めるとほぼ9割以上の評価である。
- ・子供たちを対象とした地域イベントは満足の高く、一方、歴史など専門性の高い取組みは満足率がやや低い傾向にある。
- ・土木の歴史的価値継承は、歴史関係の特別展のため、歴史に興味のある観覧者は、興味深い、勉強になった、ガイドの解説が分かりやすかったと好評であったが、一方で、文字が多い、写真や絵があると分かりやすいとの意見もある、今後、分かりやすい展示・解説の充実に取組む必要がある。
- ・土木事業・技術の歴史「知」の交流発信拠点では、土木技術の歴史を紹介する展示で、認知度がある土木施設をテーマにしており、観覧者から、興味深い、分かりやすい、勉強になったと好評であったが、一方でパンフレットや解説資料の配布、ビデオ映像の充実などの意見もある。今後、関係団体との連携体制を構築し、情報発信やイベントを行うとともに、展示・解説の充実に取組む必要がある。
- ・地域魅力創造は、親子参加によるイベントや夏休みの自由研究に役立つイベントを開催したため、勉強になった、面白かった、説明が分かりやすかったと好評であったが、待ち時間が長い、説明者の声が聞き取りにくいとの意見もある。今後、企画段階で改善していく必要がある。

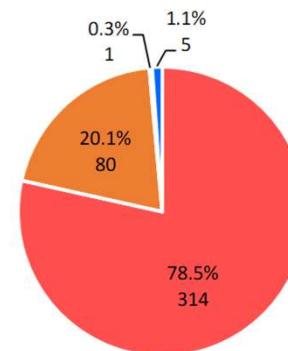
今後は、このような意見を踏まえて、改善等を行い、来館者アンケートによる「満足」の割合の向上を目指す。



▲土木の歴史的価値の継承



▲土木事業・技術の歴史「知」の交流発信拠点



▲地域魅力創造

【グラフ中の数値】
上段：割合
下段：サンプル数

- 満足
- どちらかといえば満足
- どちらかといえば不満
- 不満

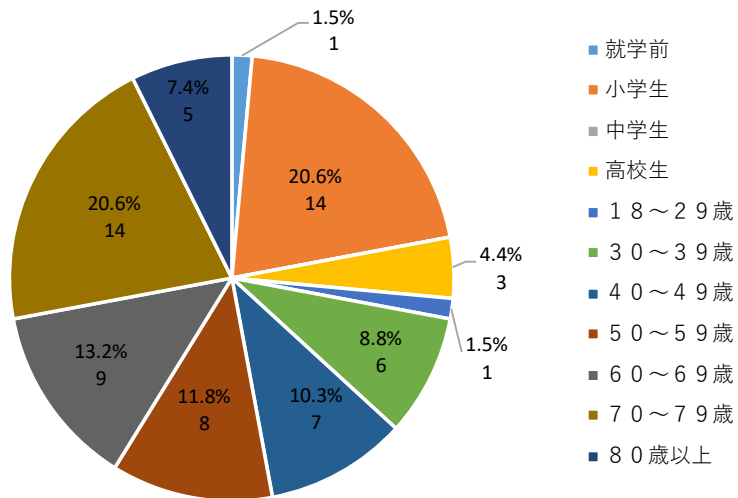
5. 目標とする成果指標について

■【参考】特別展などの来館者の年齢構成

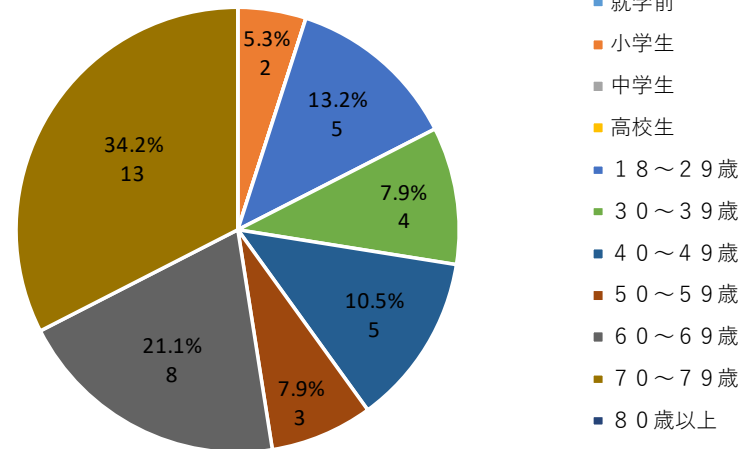
・特別展の観覧者の年齢構成を比較すると、幅広い世代が特別展を見に来られているが、特に50歳以上の世代の割合が高い。このことから、分かりやすい展示解説や解説文の文字を大きくするなど、分かりやすい展示解説を行う必要がある。

【土木の歴史的価値の継承】

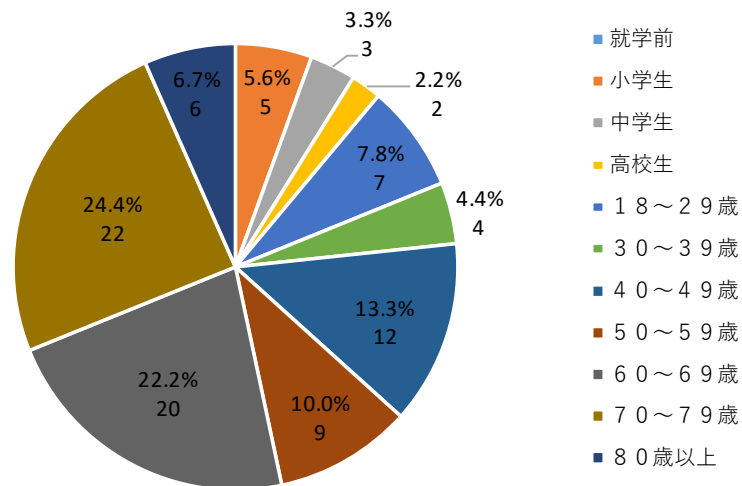
【グラフ中の数値】
上段：割合
下段：サンプル数



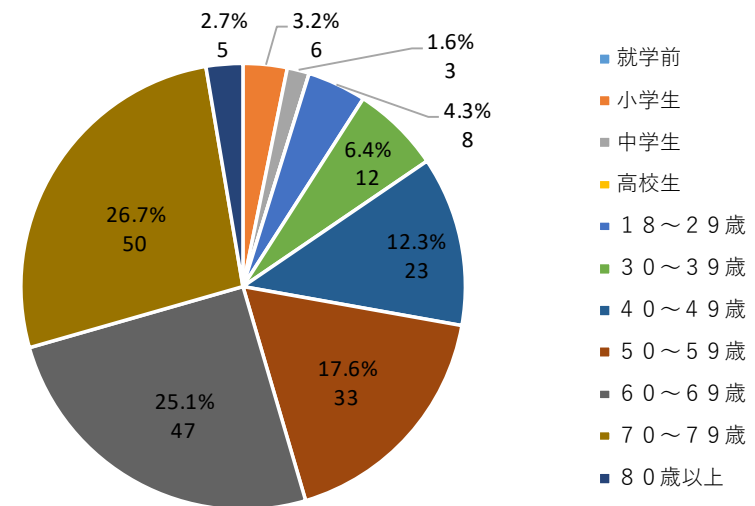
▲平成30年度田中家特別文書特別公開



▲令和元年度田中家特別文書特別公開



▲令和元年度樹木年輪と古代の気候変動



▲令和2年度大和川流域の開発と水制

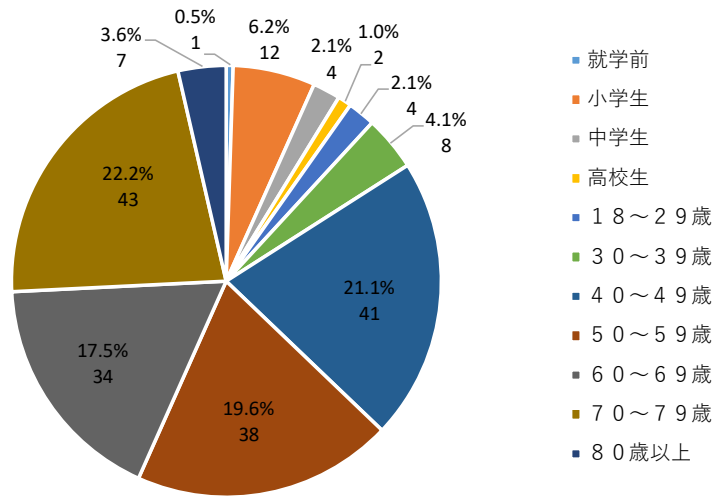
5. 目標とする成果指標について

■【参考】特別展などの来館者の年齢構成

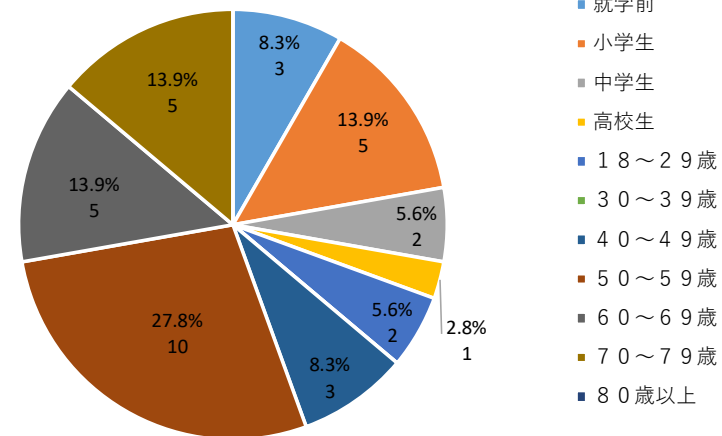
・土木遺産展の観覧者の年齢構成を比較すると、幅広い世代が土木遺産展を見に来られているが、特に50歳以上の世代の割合が高い。このことから、分かりやすい展示解説や解説文の文字を大きくするなど、分かりやすい展示解説を行う必要がある。

【土木事業・技術の歴史「知」の交流発信拠点

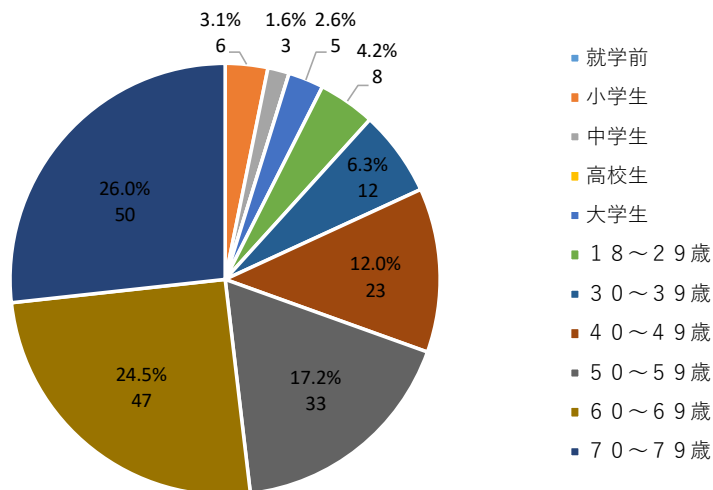
【グラフ中の数値】
上段：割合
下段：サンプル数



▲平成30年度土木遺産展（ダム）



▲令和元年度土木遺産展（橋梁）

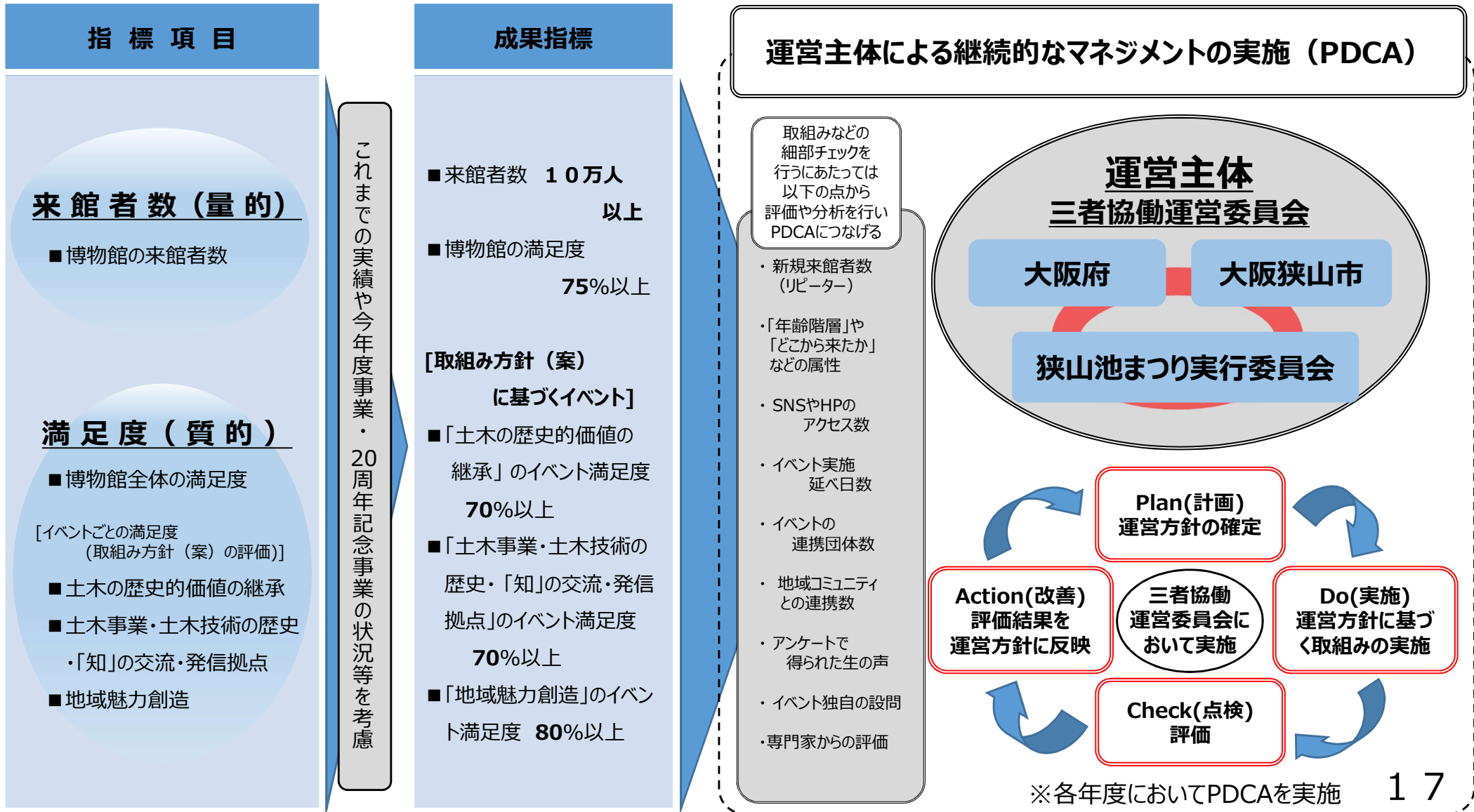


▲令和3年度土木遺産展（トンネル）

6. 継続的な運営マネジメント

【目標の具体化と指標の方向性】

- ・最終答申において取組み方針の達成状況を評価するための成果指標を設定
- ・来館者数は開館時からの目標である10万人以上、成果指標は、満足度調査結果を参考に設定
- ・成果指標に基づき取組みを評価するとともに、PDCAサイクルによる継続的なマネジメントを実施



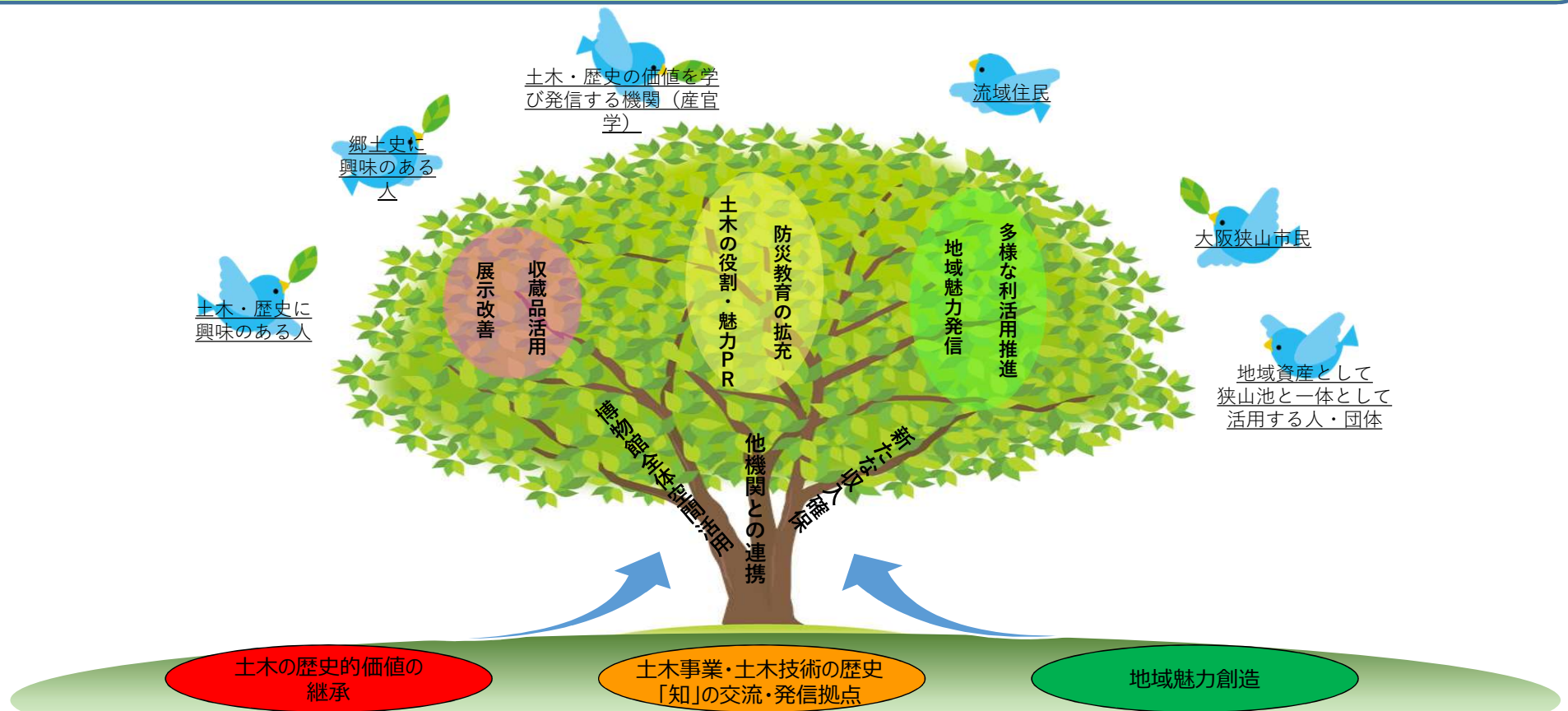
これまでの実績や今年度事業・20周年記念事業の状況等を考慮

6. 継続的な運営マネジメント

効果的・効率的な運営に向けた3つの基幹的な取組

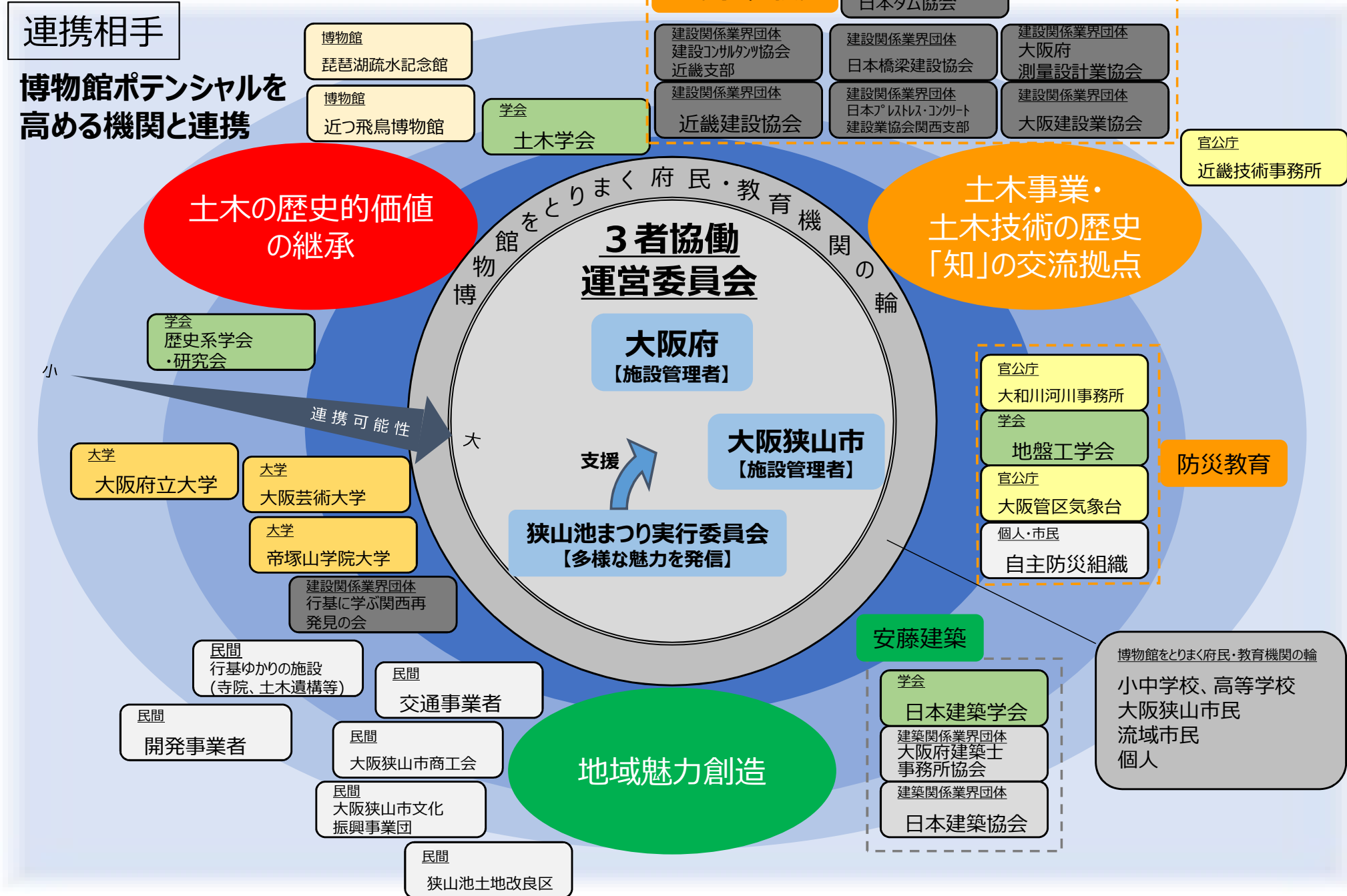
狭山池博物館の効果的・効率的な運営の実現のために、以下の3つの取組みを行い、博物館の魅力を向上させ、来訪者を増やすことによって、さらに効果的・効率的な運営システムを確立する。

- ① 他機関と連携した新たな企画による来訪者数の向上（効率的な博物館運営）
⇒博物館ポテンシャルを高める機関と連携して、研修、展示、講座、防災教育を実施し、来訪者を呼び込むことで、**博物館を「知」の交流、発信拠点の場として活用、来館者数の向上をはかる。**
- ② 博物館全体の空間の多様な主体による利活用（施設の効果的活用）
⇒狭山池周辺のにぎわいづくりと連携して博物館敷地内を地域イベントや写真・映像撮影の場として提供するなど、**博物館全体の空間の活用に取り組む。**
- ③ 中長期の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保
⇒博物館の貸出施設の新たな活用として、全空間の使用料の設定のほか、目的別の弾力的使用料として、営利目的の使用料、撮影料金の設定のほか、博物館駐車場について、大阪狭山市と連携し、狭山池周辺の大阪狭山市が管理する駐車場との一体運営を行うなど**新たな収入確保の取組みを進める。**



6. 継続的な運営マネジメント

① 他機関と連携した新たな企画による来訪者の向上



6. 継続的な運営マネジメント

① 他機関と連携した新たな企画による来訪者の向上

多様な方式による連携

様々な形式で連携を行う
(可能な機関とは組織間の
包括協定締結を目指す)

連携活動

- ・ 研修会（土木技術者向け・一般向け）、出前講座、意見交換会などの開催

〔防災講座
行基シホ°ジウム 等〕



「知」の発信

- ・ 連携相手（団体）の協力を受けた、事業や技術の発信

〔建設技術展資料
の展示 等〕



資料提供

- ・ 連携相手の持っている資料の提供

〔ドローン空撮映像 等〕



狭山池博物館



場の提供

- ・ 連携相手が主催する研究会や講演会、絵画展やパネル展の会場としての利用

〔水環境のパネル展
コンクール絵画展 等〕



広報協力

- ・ 学会誌等に博物館に関する情報を掲載
- ・ 連携先施設との共同集客

〔他博物館との
連携ツアー 等〕

狭山池博物館に関する
新聞記事

学術協力

- ・ 他博物館や研究機関との共同研究や資料交換

〔西除川災害の歴史
協働研究 等〕

狭山池
絵図の写真

事業協力

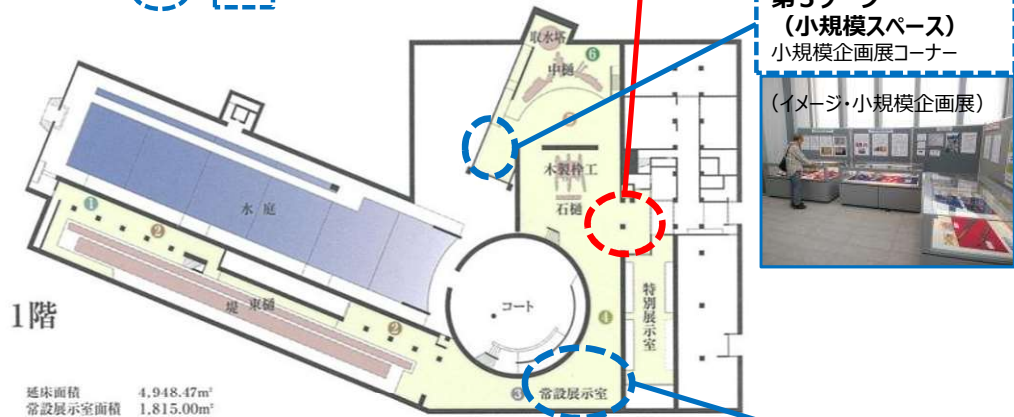
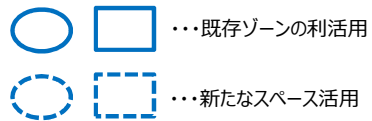
- ・ 博物館主催事業への後援、協力など

〔土木遺産展 等〕



② 博物館全体の空間の多様な主体による利活用

館内



小規模空間
 小規模企画展コーナー

第5ゾーン
 (小規模スペース)
 小規模企画展コーナー
 (イメージ・小規模企画展)

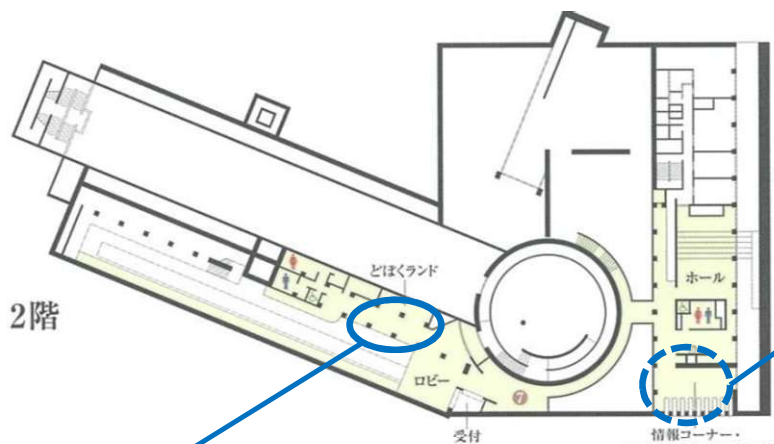


第3/第4ゾーン
 「古代/中世の土地開発と狭山池」
 ミニ講演会スペース創出を検討



小規模空間
 狭山池博物館の模型や
 デッサン画が設置

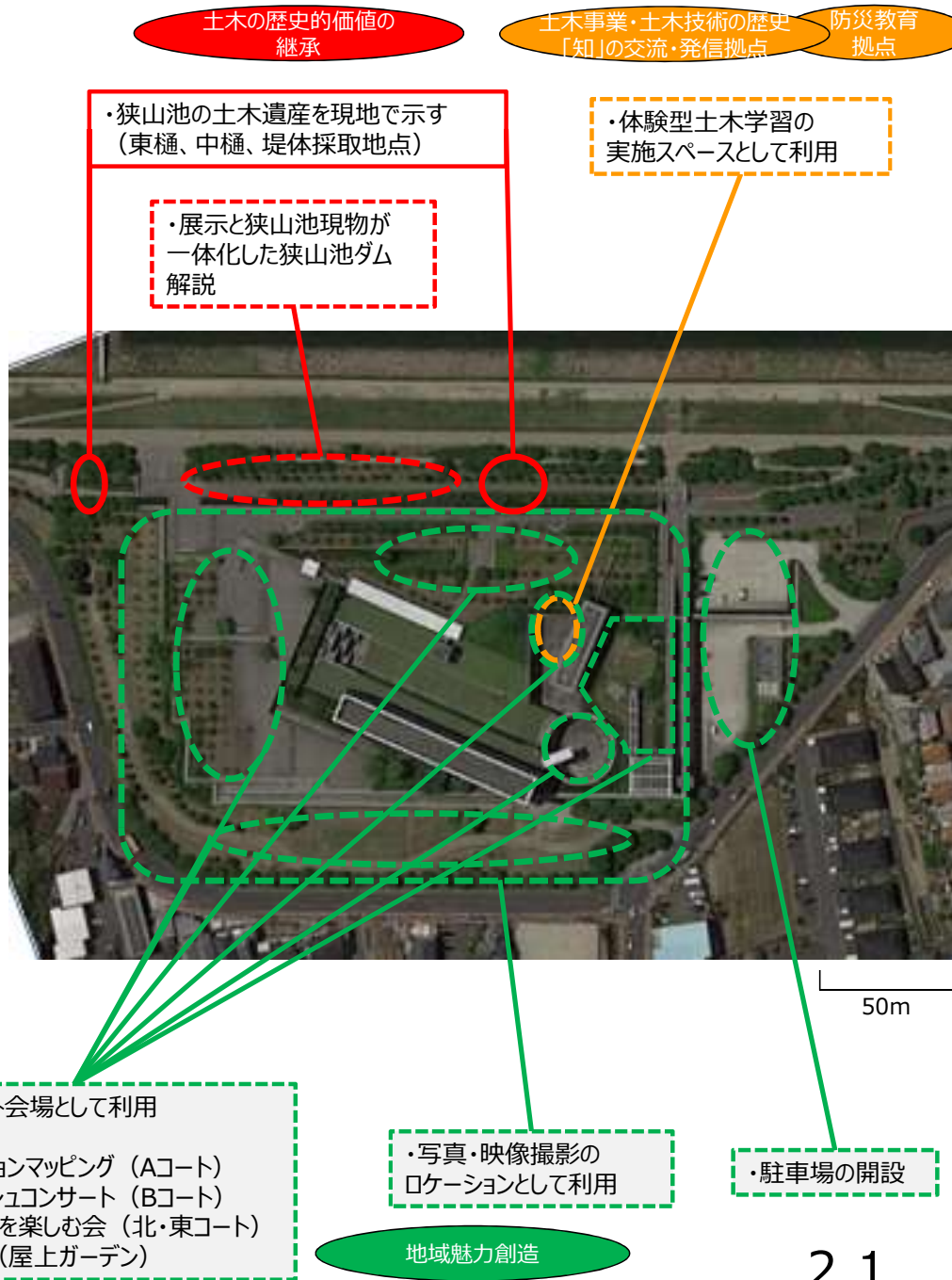
情報コーナー
 大阪狭山市立郷土資料館



どぼくランド
 防災学習エリアとして大幅な
 リニューアルを検討



屋外



③ 中長期の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）の確保

○ 魅力を高めるための運営費

土木の歴史的価値の継承

魅力的な展示充実



土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点

交流拠点機能強化



地域魅力創造

狭山池との一体的魅力創造



⇒ 新たな収入の確保（案）

- ◆ 使用料設定範囲・単価の見直し
 - ・ 全空間使用料設定
 - ・ 目的別の弾力的使用料設定（営利料金、撮影料金）
- ◆ 土地の有効活用（駐車場開設等）
- ◆ 有料特別展等の実施
- ◆ グッズ、地産品販売 等

- ◆ 外部資金の導入
 - ・ 助成金
 - ・ 補助金
- ◆ 博物館応援団づくり（寄付） 等

○ 基盤となる運営費 = 人件費 / 光熱水費 / 通信費等 / 施設管理費 / 施設補修費 / 特別展・企画展等の製作費

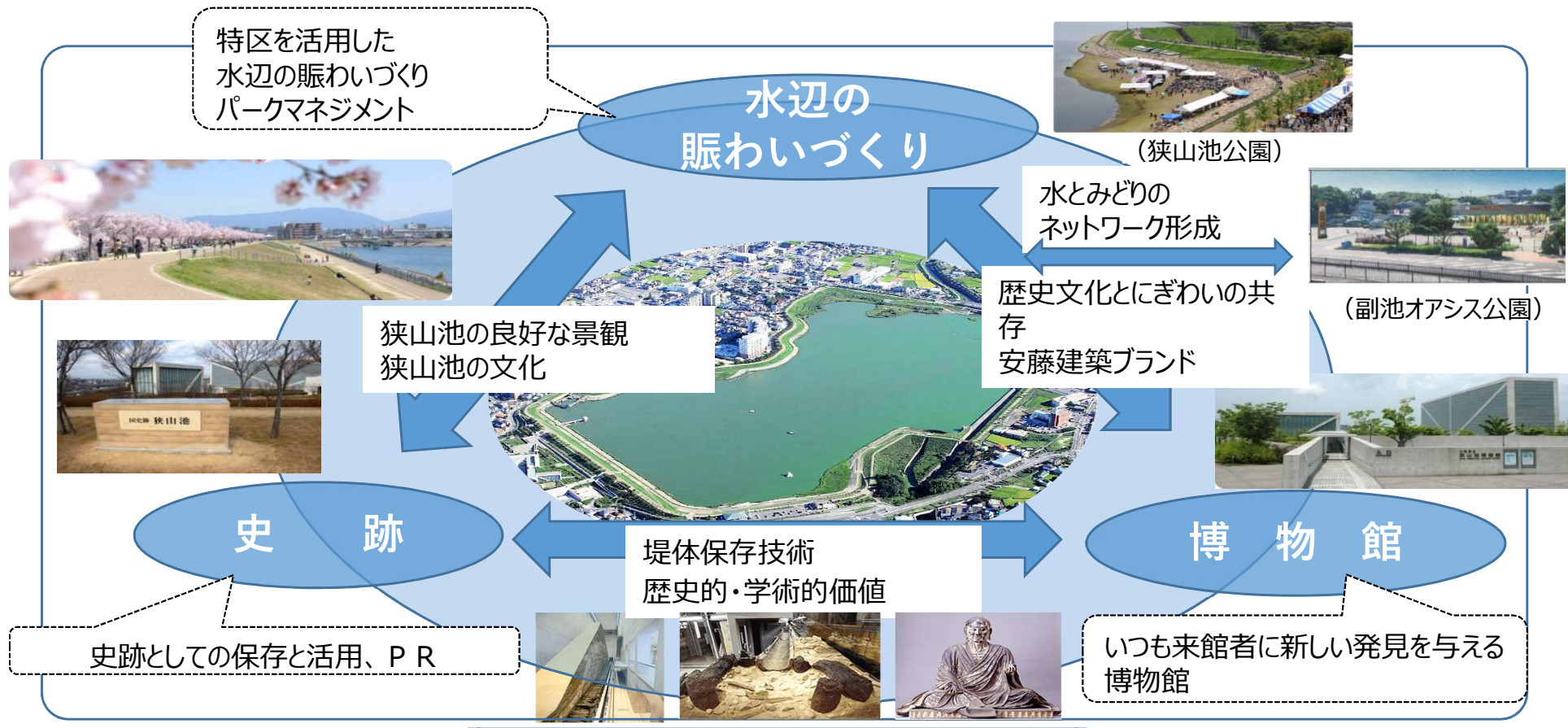
⇒ 計画的な維持管理費の確保

7. 狭山池博物館の中長期的な取組みの方向性

	取組の柱		
	土木の歴史的価値の継承	土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点	地域魅力創造
短期的取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土木の役割・魅力PR ○ 防災教育の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域魅力発信 ○ 多様な利活用推進
中期的取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化 ・狭山池における研究・調査により得られた知識・情報を取り入れた展示・解説の提供 ・狭山池への興味の有無に関係なく、誰もがわかる展示・解説の提供 ・狭山池の必要性、重要性をより広く伝えるための情報発信 ○ 魅力的な展示充実（デジタル技術導入等） ・展示のデジタル技術の導入 ・展示と現物(狭山池)の一体化（狭山池現地の説明板改良等） ・残存する池守田中家文書の解説・発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土木の役割・魅力PR ○ 防災教育の拡充 ・土木・建築などの関係団体との連携体制を構築し、情報発信、イベントの実施 ・集積した情報の適切な公開・発信 ・「日本最古のダム式ため池」「安藤建築」という特性を活かしたイベント実施 ○ 調査・研究の拠点機能強化（土木技術等アーカイブス整備・教育研修等メニュー充実） ・常設の防災教育拠点施設の設置 ・資料・情報等のデジタルアーカイブス作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域魅力発信 ○ 多様な利活用推進 ・広報活動を通じた魅力の発信 ・ボランティア主導による地域に根差したイベントの実施 ・市のまちづくり基本構想との一体的な博物館運営の実施 ○ 狭山池との一体的魅力創造（狭山池の価値を高める環境整備） ・歴史資産の活用 ・狭山池に集える水と緑の歩行空間ネットワークづくり ・パークマネジメント(狭山池公園)との相乗効果発現（地域活動や日常利用の場の創出） ・民間による狭山池公園・狭山池博物館の運営サポート
長期的取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 常設展示の全面的リニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本で唯一の土木主体博物館としてのプレゼンス確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 狭山池を核としたまちづくり ・歴史資産の発信拠点形成 ・みどりの中心核としての賑わいづくり ・水と緑のアメニティ軸整備

狭山池の知名度の向上を目指した取組みについて（狭山池との一体的魅力創造）

- ◆狭山池では、これまで、大阪狭山市のシンボルとして狭山池まつり、市民ボランティアによる清掃活動のほか、さまざまなイベントを実施してきた。平成29年3月に水辺空間を活かした賑わいの創出や地域活性化が期待される地域として、狭山池は、都市・地域再生等利用区域の指定を受け、さらなる水辺の賑わいづくりが期待される。
- ◆狭山池周辺エリアでは、大阪狭山市において令和2年3月に「水とみどりのネットワーク構想」が策定され、水とみどりの豊かなまちづくりを目指して、隣接する副池の公民連携事業が進められ、令和4年4月に副池オアシス公園がリニューアルオープン予定である。また、狭山池公園では、大阪狭山市がキッチンカーによる社会実験を行うなど、コロナ禍においても、さまざまな地域イベントが開催されている。
- ◆さらに、狭山池は、平成28年に築造1400年を迎え、歴史的・学術的にも価値が高く平成27年に国の史跡として指定され、歴史的価値と水辺の賑わいが融合する貴重なエリアとなっている。
- ◆中長期的な取組みとして、狭山池エリアの水辺のにぎわいづくりを実現し、狭山池エリア（狭山池、副池、博物館）に多くの府民を呼び込むことで得られる新たな収入を活用し、**博物館と連携して狭山池の歴史的・学術的価値や文化、水辺や安藤建築である博物館の魅力を府民に伝える取組みを推進することで、地域のシンボルとしてのブランド力の向上を目指すことが重要である。**



(中長期的取組み) 地域のシンボルとしてのブランド力の向上

8. 狭山池博物館の中長期に向けた取組みについて

- 「いつも、来館者に新しい発見を！～狭山池の昔・今・将来～<多様な主体による新たな価値・人の創造発信拠点>」をコンセプトに狭山池博物館が目指すべき姿に確実に近づけるよう中長期的な取組みを推進。
- 他機関と連携した新たな取組みや狭山池の知名度の向上を目指した取組みを推進。
- 博物館内及び敷地内を地域イベントや撮影の場として、博物館全体の空間の多様な主体による利活用。
- 中長期の新たな魅力創出の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保に向けた取組みを推進。

